

倶多楽火山

○大正地獄の熱水温度、組成から推定された地化学温度と日和山噴気温度

2011年5月16日の噴騰活動後、熱水組成から推定される地化学温度は220~230℃前後を保っていたが、11月上旬からやや上昇し、2012年1月22日の極く小規模な噴騰活動(?)を迎えたように見える。この活動時に熱水温度はパルス状の変化を示したが、6月中旬以降の温度は噴騰活動が始まる前の数年間よりもやや高い約65℃前後で推移した。同様に噴騰活動に先行して上昇した日和山の噴気温度も依然として高い状態にある。

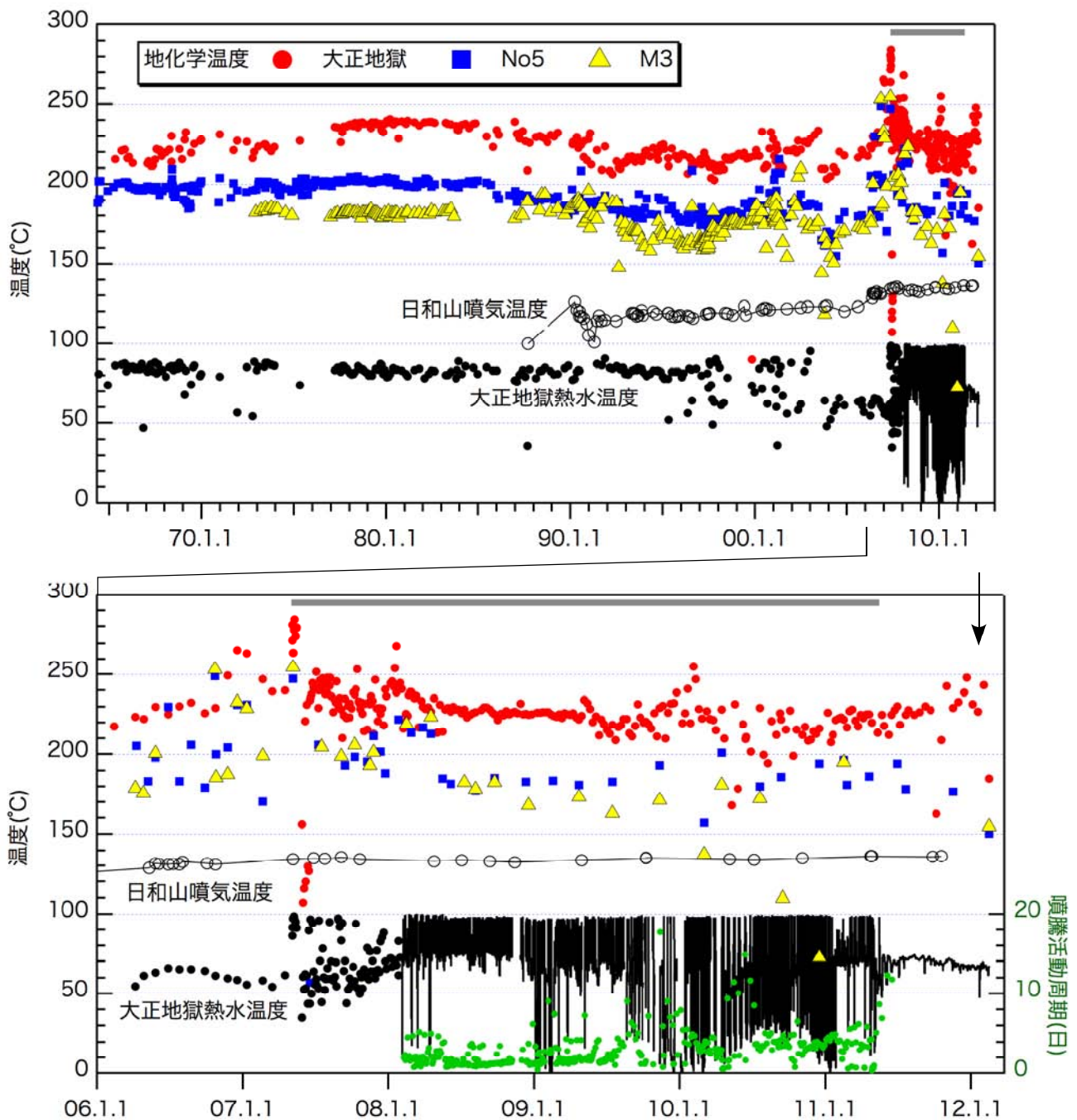


図1. 大正地獄の熱水温度、熱水組成から推定された深部熱水温度および日和山噴気温度の経年変化. 図上部の灰太線は噴騰活動期間を示す. 2008年2月以降の大正地獄の熱水温度は底部付近における連続観測値. なお下図には噴騰活動周期も示している.

(安孫子・大島)

倶多楽火山